

普及活動情勢報告（平成 30 年 8 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

優良種子の生産を後押し ～香北採種組合ほ場審査～



8 月 9 日、香北町吉野地区において‘コシヒカリ’一般種子採種ほ場の審査が実施され、香北採種組合長でもあるほ場主農家 1 名や審査員 10 名が参加しました。

審査では、一筆毎に種子伝染性病害の有無や異株・雑草の抜き取り等を行い、農家に対して一般種子生産ほ場として合格または保留の審査結果を伝えました。農家からは「7 月の豪雨災害で用水路が土砂で埋まって、水田に水が引けず、枯死して倒伏したものが多く、今年は減収するかもしれない」といった声がかけられました。

農業改良普及課は、今後も、優良種子の生産安定への支援に取り組んでいきます。

中央東地区環境制御技術普及推進会議を開催しました！



7 月 30 日に香美農林合同庁舎会議室にて、中央東地区環境制御技術普及推進会議を 34 名（うち農家 10 名）が参加し、開催しました。

会では、重点プロジェクト課題の進捗状況、農業改良普及課や各関係機関の試験結果を説明し、次作での普及方法に重点を置いて協議を行いました。参加者からは、炭酸ガス施用や普及方法への意見も活発に出て、次作での取り組みに生かせる会となりました。

農業改良普及課は、各JAや関係機関と連携して、様々な機会環境制御技術の情報発信を行い、増収を支援していきます。

担い手の確保に向けて～市町村合同就農相談会に参加～



8 月 14 日、イオンモール高知にて、就農相談会が開催されました。農業改良普及課は、お盆で帰省されている来場者等に管内 3 市の産地提案書を中心に就農 PR 活動を展開しました。来場者は、「新しい農業の始め方」のトークショーを聴講するなど、農業に親しんでもらうイベントにも参加しました。トークショーは「楽しかった」、「食の観点から農業は、大事な分野であることが理解できた」などの意見も聞かれ、好評のようでした。3 市のブースには就農予定の研修生など 5 組が訪れるなど、新たな情報収集を行っていました。

農業改良普及課は、今後も就農相談会等への支援を継続するなど、新規就農者確保に取り組んでいきます。

水稻の新品種「よさ恋美人」を収穫しました！



8月6日に「よさ恋美人」の試験ほ場の生育調査・坪刈りを実施しました。「よさ恋美人」は「コシヒカリ」より品質がよく、味はコシヒカリ並といわれています。

生育調査の結果、今年の「よさ恋美人」は分けつが少ないことがわかりました。また、坪刈りした株は、乾燥、脱穀等を行い、収量調査を実施することで今年の「よさ恋美人」の出来栄えについて評価します。調査結果は生産者へ提供し、今後の水稻栽培に役立ててもらえればと思います。

農業改良普及課では、今後も、水稻試験を実施し、結果を生産者へ提供することにより、南国市の水稻栽培を振興していきます。

山北みかんバターの改善に向けて！

～JA 土佐香美果樹部果樹女性部 6次産業化セミナーに参加～



7月26日、農業技術センターで同セミナー(実践コースⅡ)が開催され、受講者や関係者約20名が参加しました。農業改良普及課は、山北みかんバターの開発に協力するとともに、果樹女性部のセミナー応募に当たり、課題や問題点の整理など支援を行いました。

セミナーでは、受講者6団体が取り組みテーマなどを発表した後、アドバイザーの講義がありました。

果樹女性部員は、次回の実習に向けて、山北みかんバターの具体的な改善方法について、アドバイザーから積極的に助言を請うなど熱心に取り組んでいました。

ニラ部会40億円産地を目指して



8月15日、JA土佐香美土佐山田支所において、農協の販売担当や市も参加し、ニラ部会役員会を開催しました。産地ビジョンの目標達成のために必要なことは何かについて県外先進地視察の報告も参考にして話し合いました。

部会長からは「40億円の達成は関係機関が一体的に取り組む必要がある」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、技術面だけでなく県外の規模拡大、担い手確保の事例等も参考にしながら、目標達成への支援をしていきます。

ブランド価値向上に向け「お米の食味を考える勉強会」開催



7月26日、JA土佐香美香北支所において、菰生米研究会の11名が、「お米の食味を考える勉強会」を開催し、講師の肥料販売会社から良食味米生産のための施肥方法、米コンクール出品方法等を学びました。

農業改良普及課からは、7月の豪雨後の対策、その後の高温対策を紹介しました。

農業改良普及課では、引き続き菰生米のブランド価値向上に向けた取り組みを支援していきます。